

松江分自然環境倶楽部通信

# 葦の原

*Voshi no Hara*

## トピックス

- 十四間川左岸堤防全面改修決定！
- 宍道湖西岸堤防改修促進等の要望活動実施
- 十四間川の魚、シジミ生息状況調査を実施
- 第3回環境講演会を開催
- 東京から学生さんが調査に来訪

## 連載

専門家に聞く「来待石のマイクロな世界」(第5回)

## 寄稿

斐伊川放水路分流堰稼働に想う 出雲市議会議員 伊藤 繁満  
「できることから始めよう」の気持ちとともに 松江市環境保全課 井川 葉月

## 松江分ナウ！

## 所感・雑感

湖や川をきれいに

## 報告

十四間川左岸堤防漏水調査データ  
活動の記録(2013年7月～2013年12月)



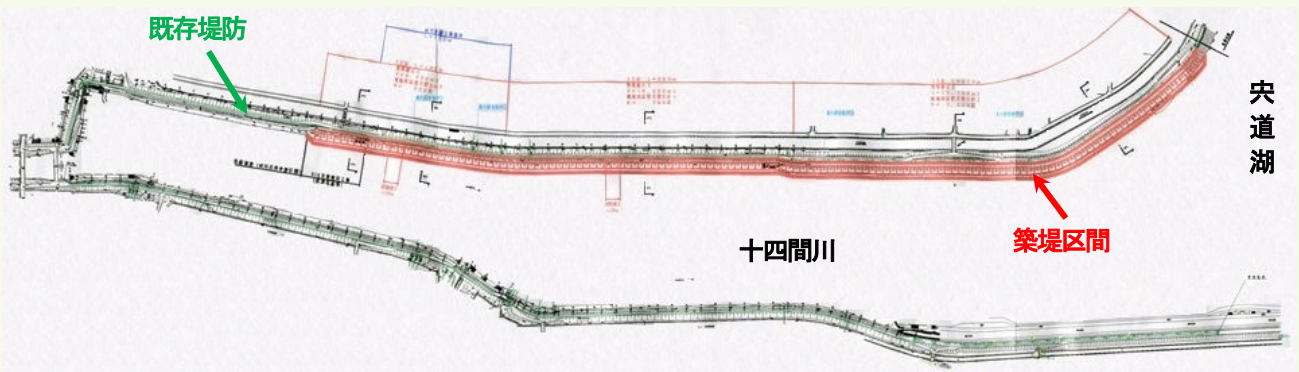
# 十四間川左岸堤防全面改修決定！

私たち松江分自然環境倶楽部の活動の大きな目的の一つであり倶楽部設立以来要望活動等に取り組んできた十四間川左岸堤防の漏水防止、補修が、関係各位のご尽力によって現在の堤防を拡幅、嵩上するという全面的改修となって実現することとなりました。

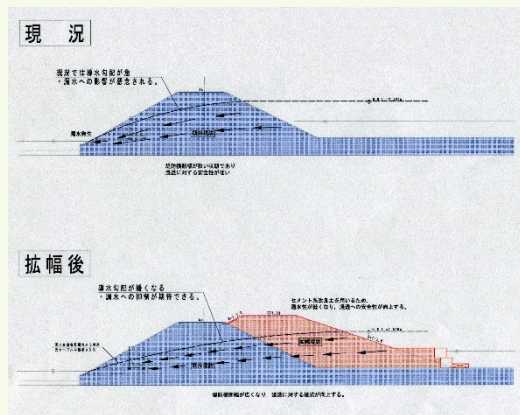
そして、10月1日には、宍道湖西岸改修促進期成同盟会伊藤繁満会長（出雲市議会議員）、出雲県土整備事務所、出雲市役所、同斐川支所担当者による松江分自治会及び松江分自然環境倶楽部に対する説明会が開催されました。

その計画によると改修区間は、十四間川上流部の船着き場から管理が島根県から国交省に移る十四間川と宍道湖の境ま

での約1250mで、この区間について、現在の堤防の内側（河川敷側）にスライドする形で新たに高さ4m、上部の幅5mの堤防を築くというのです。これは、計画堤防高3.5mから大幅に沈下してしまっている現堤防を、今後10年間の沈下量を考慮して4mまで嵩上げするとともに、堤防幅が狭いことが漏水の原因となっていることから堤防の内側にずらして築堤することにより堤防幅を広げ、動水勾配を緩くして漏水をなくすためこのような形が考えられたということです。そして、現在の堤防を管理用道路とすることによって、将来の堤防の沈下に対する嵩上工事等を容易にすることにもつながるとのことです。



工事平面図



標準横断面図

築堤用の土は、現在出雲市中心市街地域の洪水対策として進められている新内藤川流域の河川整備工事によって生じた建設発生土をセメント改良したものが用いられ、この工事の進捗に合わせて築堤工事が行われることとなります。計画では、今年度中に20m程度の堤防（試験盛土）を2か所作って動体観測を行い、安全性を確認した上で、来年度から本格的に築堤工事に着工し、3～4年内の完成を目指すことになるとされています。

そして、11月22日には、2か所の試験盛土地点において、正確な位置や高さを出すための丁張作業が開始され、午後からは降り出した雨の中、土留めに用いる大型土嚢袋が多数運び込まれ

丁張作業の終わった盛土予定地点横に降ろされました。

続いて、11月26日には、上流側の試験盛土工事箇所へ水質汚濁を防止するためのシルトフェンスが設置され、翌27日には上流側、下流側2か所の試験盛土箇所へ土留めの大型土嚢が設置され、試験盛土の準備が整いました。

今後は、2400～2500m<sup>3</sup>の土が運び込まれ、高さ4m、上部の幅5mの試験盛土が行われ、今年度いっぱいをかけて動体観測が行われ、安全性の確認がされることとなります。



丁張作業(11/22)



シルトフェンス設置(11/26)





土嚢設置(点線は、築堤想像図)  
(11/27)

2010年6月に漏水箇所を発見して以来、自然環境倶楽部を立ち上げ、毎月の堤防の見回り漏水調査等を実施するとともに、宍道湖西岸堤防改修促進期成同盟会、出雲市、島根県出雲県土整備事務所、国土交通省中国地方整備局出雲河川事務所、出雲市議、地元選出の県議、国会議員をはじめ、関係の機関、団体等に実情を訴え、早急な漏水対策の実施と早期の全面改修を要望してきましたが、このように早(抜本的)といえる改修が実現したことに大きな喜びと活動の意義を感じました。

これを契機に、倶楽部として、宍道湖西岸堤防改修実現につなげることをはじめとして、なお一層地域の安全と自然環境の保全活動に取り組んでいかなければならないとの思いを強くしていますが、ただ残念なことには、この築堤工事が全て終わり堤防の維持管理に影響がないと認められるまでの間は、来待石ネットの敷設、砂やセラミックサンド、ゼオライトによる浅場造成、ヨシの植栽等は控えるよう知らせがあり今年度予定していたヨシの植栽活動も中止せざるを得ないことになりました。さらに、これまで植栽してきたヨシも築堤工事に伴ってなくなってしまうこととなりそうです。そして、ヨシの植栽活動を再開できるとしたら早くても数年後ということになると思われ、倶楽部としては来年度以降の活動目標、計画について、これから再検討、再構築していくことが必要となりました。

## 宍道湖西岸堤防改修促進等の要望活動実施

7月3日(水)、宍道湖西岸堤防改修促進期成同盟による出雲市長、国土交通省中国地方建設局出雲河川事務所、島根県出雲県土整備事務所への宍道湖西岸堤防の改修促進等についての要望活動が行われました。伊藤繁満期成同盟会長(出雲市議会議員)の好意により松江分自然環境倶楽部もこの要望活動に同行することができ、期成同盟とともに宍道湖西岸堤防及び十四間川左岸堤防の早期改修の実現、斐伊川河口部に堆積する砂の撤去、十四間川の環境修復事業(浚渫地への覆砂等)の推進などについて要望を行いました。

要望には、要望事項を取りまとめた「伍右衛門川(十四間川)に関するお願い」、広報誌「障の原」の最近号(第3号、4号)を手渡して、十四間川の堤防や川の現状、そして地元住民として私たちが取り組んでいる堤防や川を守る様々な活動について説

明しながら上記の3項目の早期実現を要望しました。

要望に対して、市長、出雲河川事務所長、出雲県土整備事務所長からは、宍道湖西岸堤防、十四間川堤防の現状はもとより十四間川の状況や私たちの活動についてもよく理解していること、堤防危険個所の補修、抜本的改修計画立案のための調査、腹付盛土工事の継続等それぞれの所掌範囲において鋭意検討し実施に移しており今後も国、県、市が互いに緊密な連携を取りながら事業を進めていきたいとの説明を得ました。

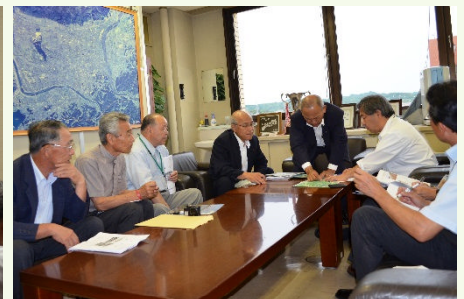
そして、この度この要望活動が終了し十四間川左岸堤防の新築堤防が決定し、試験盛土を経て、来年度から本格着工の運びとなりました。しかし、まだ宍道湖西岸堤防の改修は手つかずで残されており、倶楽部では、今後も宍道湖西岸全体の早期改修実現を目指して継続して各方面に要望活動を行っていきます。



出雲市長への要望



国土交通省出雲河川事務所への要望



出雲県土整備事務所への要望

## 十四間川の魚、シジミ生息状況調査を実施

倶楽部が参加している十四間川環境再生協議会でも覆砂の効果やWEPシステムによる高濃度酸素水供給の効果を確認

認するための魚介類の生息状況調査が行われていますが、倶楽部でも独自に覆砂場所においてその効果を確認するための魚と

シジミの生息状況調査を実施しました。

魚の調査は、竹を細く割いて一升瓶を大きくしたような形のウナギ笥 10 個を覆砂場所に設置し翌日朝に引き上げて捕れた魚を調べるという方法で行いました。

7 月 28 日朝、前日沈めておいたカゴを引き上げた結果、体長約 20cm の大型のウロハゼ、マハゼなどのハゼが 49 匹、手長エビが約 30 匹入っており覆砂場所が魚やエビの生息場所となっていることが確認されました。



ウナギ笥の引上げ



捕れたハゼやエビ

一方、覆砂場所におけるシジミの生息状況調査は、8 月 10 日朝 6 時から斐川漁業会の協力を得て実施しました。

十四間川左岸には、昨年 5 月から今年 3 月にかけて、合計 10,000 m<sup>2</sup> 余りの覆砂が行われ、浅場が造成されています。シジミに対するその効果を確認しました。

調査は、覆砂場所のうち、腹付盛土と下流部の 2 地点で、①底がメッシュになった小さなジョレンで砂をすくい上げて、シジミの稚貝等の生息状況を確認、②覆砂場所を手掻きジョレンで掻



シジミの生息状況調査の様子

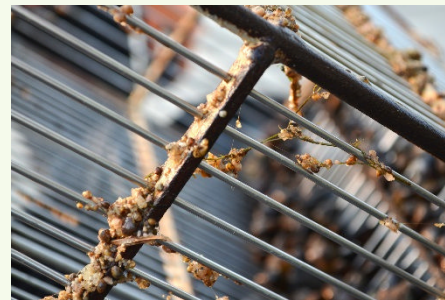
き、シジミの生息状況を確認、③沖合の覆砂場所の先端部付近を船から掻いて、シジミの生息状況を確認するという方法で行いました。

その結果、いずれの地点でも、2~3mm の小さなシジミから 5mm 前後、10mm 前後といった生育段階の異なるシジミがたくさん確認され、20~25mm の出荷可能なサイズのシジミもたくさん確認できました。とくに、腹付盛土付近の手掻きジョレンには、たくさんのシジミの稚貝が分泌する粘着液によって付着していました。



小さなジョレンで捕れたシジミ

手掻きジョレンで捕れたシジミ



ジョレンに付着した浮遊幼生

このように稚貝から 25mm ほどに成長したもので、さまざまな大きさの貝がたくさん確認されたことから覆砂場所においてシジミが順調に増殖し成長していることが確かめられました。

現在、斐伊川河口の河道確保のため浚渫される砂約 3 万 m<sup>3</sup> が、シジミの生息環境改善のため湖内に覆砂されています。過去の宍道湖への覆砂でも硫化水素の発生を抑え、シジミが生育できる良好な環境が保たれているということであり今回の十四間川の覆砂場所での調査でも効果が確認されましたので、今回の大規模な覆砂によって生物の生息環境改善が図られ、シジミ等の増殖に繋がればと思います。また、覆砂とともに水辺(浅場)のヨシ帯を復活させることによって、さらに水質改善が図られ、かつての豊かな宍道湖の自然が蘇ればと思います。

## 第 3 回環境講演会を開催

8 月 18 日、松江分研修センターにおいて環境講演会を開催しました。倶楽部では設立以来私たちの暮らしを守っている十四間川堤防の漏水調査やヨシの植栽活動を実施し、また、今年からはヨシ植栽場所に漂着するゴミの回収を行うなど堤防と湖水環境を守るためのさまざまな取り組みを行ってきていますが、この講

演会も、そうした活動の一環として、公益財団法人しまね自然と環境財団の助成を得て、自分たちの住む地域の成り立ちや自然、あるいは環境問題についてみんなで学んでいくことを目的に開催しているものです。

今回は、野鳥の宝庫宍道湖の水鳥、出雲平野や宍道湖の成



り立ち、宍道湖南岸から産出する来待石の特徴や新しい利用法などについて、3人の専門家に解説してもらいました。

最初に、公益財団法人ホシザキグリーン財団事業課長森茂晃氏から、宍道湖西岸でみられる多くの鳥たちの種類や生態についてわかりやすいお話をいただきました。

2005年に中海とともにラムサール条約に鳥獣保護区(集団渡来地)として登録された宍道湖周辺では、約240種の鳥類が飛来し、そのうちきわめて稀なものを除いても、約160種もの多種類の鳥を身近に見ることができること。そして十四間川ではカモだけでも15種類程度がいて、ヨシやガマの中や水田に営巣するバンが減少し、代わって20年位前には数の少なかった藻や甲殻類を食べるオオバンが増加してきていることなど、十四間川周辺で季節ごとにみられる鳥類の種類や生態についてたくさんの興味深い話がありました。

続いて、県産ゼオライトの有効利用について研究をしている大福工業株式会社環境部出雲環境技術センター研究員五石

由美氏から来待石がどのようにしてできたのか、来待石の組織、構成する鉱物や中に含まれるゼオライトの吸着効果を利用した水質浄化への活用などについて講演がありました。(当日の講演内容をもとに専門家に聞くに寄稿いただいています。)

そして、最後に、認定NPO法人自然再生センター理事長、モニュメントミュージアム来待ストーン館長の島根大学名誉教授徳岡隆夫氏から地球誕生の46億年前から現在までの地殻や気候の変動、生物の進化の歴史に基づく大きな視点で現在や将来の地球環境を考えることが必要との話があり、次いで約11,000年前から現在までの斐伊川下流域、宍道湖、中海の地形の変遷と来待石はゼオライトをたくさん含み、もって多面的な利用が望めるものであるとの話をいただきました。

この後、質問、意見交換が行われ、来待石の性質や宍道湖の水鳥の増加と餌となる水草の関係、シジミを食べる水鳥などについて活発な質問等があり大変有意義な講演会となりました。



左から五石氏、森氏、徳岡氏



講演を聴く参加者



意見交換

## 東京から学生さんが調査に来訪

10月6日、私たちの活動をホームページを通じて知った駒澤大学3回生の4名の学生さんが、活動内容を知りたいとほろぼろ調査に来られました。学生さんたちは、駒澤大学文学部地理学科地域環境研究専攻で、ゼミにおいて宍道湖の自然再生について研究を行っているとのこと、15名余りが10月4日から7日までの日程で宍道湖周辺の巡検のため訪れているとのことでした。6日は関心のある活動や場所等を小グループに分かれて調査する日に当たっておりかねてから私たちの取り組んでいる活動に注目していた4名のグループの方の訪問を受けました。

当日は、松江分研修センターにおいて、倶楽部広報担当から倶楽部設立のきっかけ、目的、主な活動内容、今後の計画等を説明し、学生さんの方からその内容に対していろいろな質問をいただきました。そして、一通りの説明、質問が終了した後、活動場所である十四間川のヨシの植栽場所へ移動し、実際にその目で私たちの活動の状況を見てもらいました。

今回の巡検に基づき研究の成果は、ゼミのレポートや卒業論文の作成に活かしていくとのこと。今回の巡検が、立派な卒業論文となって結実するよう祈りたいと思います。



大福工業株式会社 五石由美

島根県松江市宍道町来待地域には良質な石材である来待石が採石されます。これは古くから多様な利用をされてきており、江戸時代には松江藩の松平直政公が御止石として藩外への流出を禁止し、松江藩の特産品としてから「出雲石灯籠」のブランドができたといわれています。

来待石は、石質が軟らかく、切り出しや加工がしやすいのが特徴であり、風化が速いため、切り出した直後は灰色がかった色ですが、短期間で黄褐色に変化し、色一つをとっていても、様々な顔を見せてくれる石材です。また、苔が生えやすいなど、日本庭園を造る上でも重要な石材の一つと言えます。

#### ○宍道湖・来待周辺の地質

来待地域周辺の地質に目を向けてみると、南部は古第三紀、つまり5000から6000万年前に形成された地層で、主にお墓の石などにも使われる花崗岩などが分布しています。そして、宍道湖に面した北部には約1400万年前に形成された新第三紀中新世の岩石が分布しています。この北部の新第三紀中新統は火山噴出物を伴い、海の中で出来た海成層や陸で出来た陸成層からなります。

また、地下から地表に向けてどのような岩石が重なっているかを見てみると、一番地下の深い場所では、古第三紀(5000から6000万年前)に形成された花崗岩類。その上には川合・久利層と呼ばれる礫岩や砂岩・泥岩などが、更にその上に、安山岩溶岩や凝灰質砂岩からなる大森層。大森層の上には布志名層と呼ばれる砂岩・泥岩が重なっています。

来待石は松江市玉湯町から同宍道町にかけて東西約10km、幅1~2kmの新第三紀中新統から採石され、大森層の凝灰質砂岩に分類されます。もっと細かく来待石を見てみると、安山岩質な岩片を主体とする凝灰質砂岩と言えます。その他に長石、石英、ゼオライトが含まれています。

『来待石は砂岩です。』これは有名な話ですが、その砂岩を構成する安山岩片や長石、石英このような言葉は耳にしたことがないという方も多いでしょう。長石や石英は鉱物と呼ばれ、これらが集まると岩石になります。(動物で例えるなら、「長石」や「石英」は「チワワ」や「柴犬」、それらが集まった「岩石」は「犬」。)来待石を構成する一つ一つの小さな単位を知ること

で、今までと違った方面から来待石を見てみるのも良いのではないのでしょうか？

#### ○火成岩

マグマが地上や地下で固まって出来た岩石を火成岩と呼び、マグマの種類と冷える速さによって様々な岩石が形成されます。マグマの種類はケイ素の酸化物であるシリカの含有量によって決まり、玄武岩質マグマ、安山岩質マグマ、流紋岩質マグマと3種類あります。玄武岩質マグマが固まると黒っぽく、流紋岩質マグマが固まると白っぽい岩石になります。マグマの冷える速さは岩石の内部の組織の大きさに関係し、地表近くでマグマが急に冷えてできる岩石は、細かい結晶や結晶になれなかった火山ガラスからなる石基、この中にミリ単位の大きさの結晶が散財する斑状組織をとります。このような岩石を火山岩と呼びます。反対に地下でゆっくり固まった岩石はミリオーダーの結晶で構成された等粒状組織となり深成岩になります。

この3種類のマグマの種類(化学組成の違い)と2つの組織の組み合わせで、火成岩は玄武岩・安山岩・流紋岩・斑レイ岩・閃緑岩・花崗岩の6つに名前が分かれています。(図1、写真1)

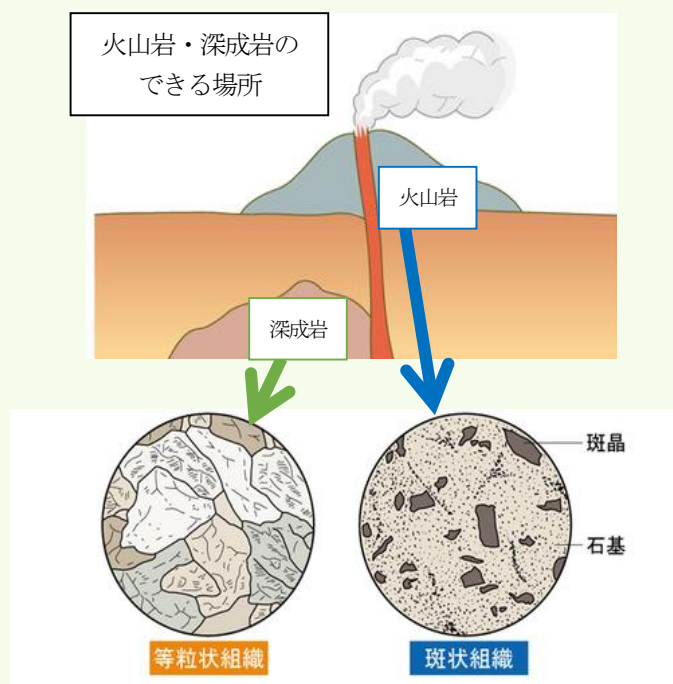


図 火成岩の形成と組織





### 【火山岩】

地表近くでマグマが急に冷えてできる岩石。  
斑状組織。



①玄武岩：  
白い斑点は斜長石、黒い部分は主に石基。



②安山岩：  
白い斑点は斜長石、黒い部分は輝石、灰色の部分は石基。



③流紋岩：  
細かい結晶が一方に並んで流れるような模様を作る。

### 【深成岩】

地下深くでマグマがゆっくりと冷えてできる岩石。  
等粒状組織。



④斑レイ岩：  
白い部分は斜長石、有色鉱物には角閃石が入ることもある。



⑤閃緑岩：  
白い部分は斜長石と石英



⑥花崗岩：  
白い部分は斜長石、カリ長石。灰色の部分は石英、黒い部分は黒雲母や角閃石。

マグマが冷えて固まってできる鉱物は自然界に大変多くの種類が存在し、特に岩石をつくる主要な鉱物を造岩鉱物と呼びます。造岩鉱物を構成する基本単位はケイ素原子と酸素原子からなる  $SiO_4$  四面体で、これは酸素原子4つが四面体の頂点に、内部に1つのケイ素原子が配置されています。 $SiO_4$  四面体が様々な連携の仕方をする事によって、種類の異なる造岩鉱物が形成されます。かんらん石は  $SiO_4$  四面体が独立、輝石は1列の鎖状、角閃石は2列の鎖状、黒雲母は平面状につながっています。

基本的な結晶構造の骨組みは  $SiO_4$  四面体が連結して鎖状になったものが形づくりますが、さらに結晶全体の電気的なバランスをとり、 $SiO_4$  の鎖どうしを結びつける為に鎖の空隙に規則正しくプラスの電気を帯びた金属イオンが配置されています。この陽イオンの種類によって、造岩鉱物は有色鉱物と無色鉱物の2つに大別されます。有色鉱物は鉄やマグネシウムなどの元素を含み、黒、褐色など濃い色をしており、代表的なものはカンラン石、輝石、角閃石、黒雲母があります。無色鉱物はナトリウム、カリウム、カルシウムなどを含み、白色を呈しています。代表的なものは長石、石英などがあります。

### 【有色鉱物】



①カンラン石：主に玄武岩マグマから結晶化してできる鉱物。宝石名はペリドット。



②輝石：玄武岩質や安山岩質のマグマから結晶化してできる鉱物。



③角閃石：安山岩質マグマなどから結晶化してできる鉱物。



④黒雲母：花崗岩や流紋岩などに含まれる。結晶構造から、シート状にはがれやすい。

写真 2-1 有色鉱物

写真 1 6つの火成岩

## 【無色鉱物】



①石英：広い条件下で安定なため風化に強い。宝石名では水晶。

②長石：結晶構造によって斜長石と正長石(カリ長石)に大別される。特に斜長石は火成岩に広く含まれる。

写真2-2 無色鉱物

## ○堆積岩

岩石が大気や水にさらされて、砕かれたり変質したりすることを風化作用と呼びます。風化には物理的な風化と化学的な風化があり、物理的な風化作用は岩石の鉱物の温度変化による膨張・収縮、岩石の割れ目の拡大、生物の作用によって起こります。花崗岩の風化によって出来る真砂は物理的な風化によってできます。また、化学的な風化は水や大気中に含まれる二酸化炭素と反応して起こり、例えば、炭酸カルシウムでできた石灰岩は雨水や地下水に反応しやすく、溶かされて鍾乳洞やカルスト地形を形成します。その他にも、花崗岩に含まれるカリ長石は化学的風化作用により粘土鉱物に変化します。



写真3 風化した岩石

(上)物理的な風化作用 風化した花崗岩  
(下)科学的な風化作用 風化した石灰岩

侵食作用は主として水が大地を削っていく作用のことで、削り取られた岩石は流水による運搬作用で運ばれていきます。流れが遅くなると、堆積作用が起こり、堆積物としてその場に溜まっていきます。堆積物はそのままで柔らかいままですが、さらに上に積もる堆積物の重みなどで押し固められ、また水中に溶けていた成分が結合して、硬度を増し堆積岩となります。堆積岩は構成される粒子(碎屑物:石などが砕けたもの)の大きさにより、呼び方が変わります。含まれる碎屑物の粒径が2mm以上は礫岩、2~1/16mmは砂岩、1/16mm以下は泥岩となります。



礫岩：  
碎屑物の粒径  
2mm以上



砂岩：  
碎屑物の粒径  
2~1/16mm



泥岩：  
碎屑物の粒径  
1/16mm以下

写真4 堆積岩



## 斐伊川放水路分流堰稼働に想う

出雲市議会議員 伊藤 繁満

斐伊川・神戸川治水計画 3 点セットの一つである斐伊川放水路事業が地権者を始め多くの関係者のご努力とご協力、ご理解の下で本年完成したことは下流域に住んでいる私たちにとって大きな喜びであります。



本年 8 月 31 日頃から台風の影響と秋雨前線の停滞により出雲地方は連日にわたり大雨が降り続く毎日でありました。斐伊川本川の流量が 9 月 4 日以降増え続け、斐伊川本川の上島地点(上阿宮の対岸)で最大流量が毎秒約 1,250 m<sup>3</sup>に達したと発表されました。

9 月 4 日 AM5:30 頃 分流開始 毎秒 400 m<sup>3</sup>  
9 月 4 日 AM6:50 分流堰の倒伏操作開始  
9 月 5 日 AM3:20 ” 起立操作開始  
9 月 5 日 AM4:10 頃 分流終了 **最大分流量 550 m<sup>3</sup>/秒**  
整備効果

尾原ダムと斐伊川放水路の運用による水位低減効果

- ・ 上島地点 約 10cm 水位低下(尾原ダム)
- ・ 大津地点 約 80cm ” (尾原ダム及び斐伊川放水路)

- ・ 灘分地点 約 80cm ” ( ” )
- ・ 宍道湖湖心 約 20cm ” ( ” )

### \* 2 回目

本川最大流量 毎秒約 530 m<sup>3</sup>(上島地点)

**最大分流量 200 m<sup>3</sup>/秒**

- 10 月 24 日 PM3:30 頃 分流開始
- 10 月 25 日 PM3:10 分流堰の倒伏操作開始
- 10 月 25 日 PM10:40 分流堰の起立操作開始
- 10 月 25 日 PM11:20 頃 分流終了

斐伊川・宍道湖を枕にしている私たちにとりましては、先人から水害との計り知れない闘いが続けられ、今があることを忘れてはならないと思います。

一方、上流域においては、今回の分流により一回目に流砂量 27 千 m<sup>3</sup>が流れ込み、放水路下流域においては新たな課題が発生し、また、斐伊川町にとっても約 2,000 ヘクタールに及ぶ水田に灌漑する農業用水を出西頭首工から取水している現状から、大量の斐伊川砂が放水路に流れていく状況が続くと、やがては河床が低くなり、農業用水の取水が困難となり、新たな課題が生じてくるものと懸念しています。斐伊川を治めるのは容易ではありませんが、治水と利水が両立できますよう願っています。

来る年が松江分自然環境倶楽部の皆さまにとって幸多き年でありますようお祈り申し上げます。祈

## 「できることからはじめよう」の気持ちとともに

松江市環境保全課 井川 葉月

松江分自然環境倶楽部の皆さま、はじめまして。松江市環境保全課の井川葉月と申します。皆様の熱心な活動が光る広報紙「葦の原」の貴重なスペースをいただき、大変感謝しています。

私は、「しんじこみずかんきょうかいぜんきょうぎかい宍道湖水環境改善協議会」という国・県・出雲市・松江市が集まる協議会の運営に携わっています。「できることからはじめよう」という方針のもと、湖沿岸の一斉清掃やヨシの植栽・管理活動などに取り組むほか、連携を深めるためメンバー同士が集まり様々な意見交換をしています。

今年度からは、ボランティア企業・団体の皆さまにご協力いただき、ヨシの刈り取り事業を始めました。ご存じのとおり、ヨシは

地上部が枯れる冬期に刈り取るなど適切な管理をしなければ、かえって湖を汚しかねません。しかし、広大なヨシ原全てを行政が管理するには多くの費用が必要です。ボランティアの皆さま、地域の皆さまの大きな力があってこそ、この取り組みが成り立つのだと痛感しています。

さらには、刈り取ったヨシの利活用も重要な課題です。今年度、当協議会で刈り取ったヨシの一部は、雲南市の尾原ダム



貯水池周辺で計画されているホースセラピー施設の既舎の壁材として利用する予定です。(ホースセラピーとは、馬とのふれあいを通じて、心や身体の健康を取り戻そうとする取り組みです。)斐伊川水系の上流部と下流部が、水や人だけでなくコシを通じて繋がる仕組みです。

その他には、かつてあった自然の砂浜が失われ、湖に入り直接水に触れる経験が少なくなっていることから、砂浜を再生するプロジェクトも進めています。人々が水と触れ合い、「私たちの宍道湖」という意識が高まれば、自然とごみを捨てたり水を汚したりする行動はなくなるのではないのでしょうか。長野県にある諏訪湖では、湖畔に整備された親水公園に人々が憩うこ

とで、環境保全に対する意識が高まり大きな住民運動につながったと言われています。

私事ですが、我が家には3歳の娘がいます。毎朝食べる宍道湖のシジミの味噌汁や、夕焼けに舞う渡り鳥を「さようなら〜！」と追いかける湖畔の公園が大好きです。私も、子どもたちやその次の世代に、湖の美しい自然の姿を守りながら引き継ぐことができるよう、より一層頑張りたいと思います。

最後になりましたが、松江分自然環境倶楽部の皆さまの未来を見据えた着実で前向きな取り組みに、いつも感銘を覚えています。皆さまの益々のご発展を心からお祈りしています。

## 松江分ナウ!

このコーナーでは、松江分地区で起こったホットな話題、できごとなどを紹介していきます。第1回は、9月23日にあったテレビ番組の取材について紹介します。

秋分の日9月23日、日本海テレビのニュース・情報番組「エブリワン」の、よしもとお笑い芸人のもう中学生が地域の人と交流し、山陰の魅力を発信するコーナー「ともだち100人できるかな」の取材があり、もう中学生が松江分地区の人たちと交流しました。

最初に訪れた持田進さん宅では、出雲平野独特の防風林である築地松を取材しました。



立派に手入れされた整然と並ぶ大きな築地松についていろいろと質問が飛び交い、うわさを聞きつけて集まってきた近所の子ども



ちも加わって、俳句(川柳?)を詠んだりしながらにぎやかに収録が進みました。この地域を代表する独特の風景が軽妙に紹介され、多くの視聴者に見てもらえたと考えたら嬉しく、また誇らしい気分になります。

そして、次に取材に向かったのは、三嶋万一さん宅でした。

たわわに実った西条柿を採ろうとして木に登っていた孫の小学生慧斗君を見つけてやって来た取材班は、三嶋家でたくさんの果物や野菜が育てられていることに驚いていました。そして、ビニールハウスの中でぶどう(巨峰)が栽培されているのを発見すると、早速食べさせてもらい、その美味しさに感動していました。



最後に、持参した北海道産のメロンとこのぶどうとを交換すると次のともだちを探しに出発していきました。このようにして、次々と物を交換しながら、地域のたくさんの人と交流していくところを紹介するのが、この番組の売りなのです



ぶどうをメロンと交換してニコニコ顔の三嶋さん

この取材の内容は、10月4日(金)のエブリワンで放送されました。本場の出雲弁に苦労しながらも、楽しく収録して、放送で紹介してくれた番組スタッフのみなさんに感謝です。



## 所感・雑感

## 湖や川をきれいに

倶楽部では、今年 5 月から漏水調査に併せて、ヨシ植栽場所や覆砂によってできた浅場に漂着するゴミの回収活動を行っています。

漂着したゴミは、ペットボトルや空き瓶・空き缶、発泡スチロールの容器、スナック菓子などの空き袋、弁当殻などを詰め込んだレジ袋、スリッパから古タイヤまでじつに様々な物で溢れています。毎月の回収活動のほかに、6 月には身近な自然に親しんでもらうとともに、宍道湖を愛する気持ち、ゴミをなくし環境を汚さない心を育てていくことを目的に、倶楽部の保護者と子どもたちによる清掃活動も行いました。こうして、毎月多

くのゴミを回収してきました。しかし、きれいにしたと思ってもすぐに新たなゴミが流れ着いて、まさにいたちごっこです。

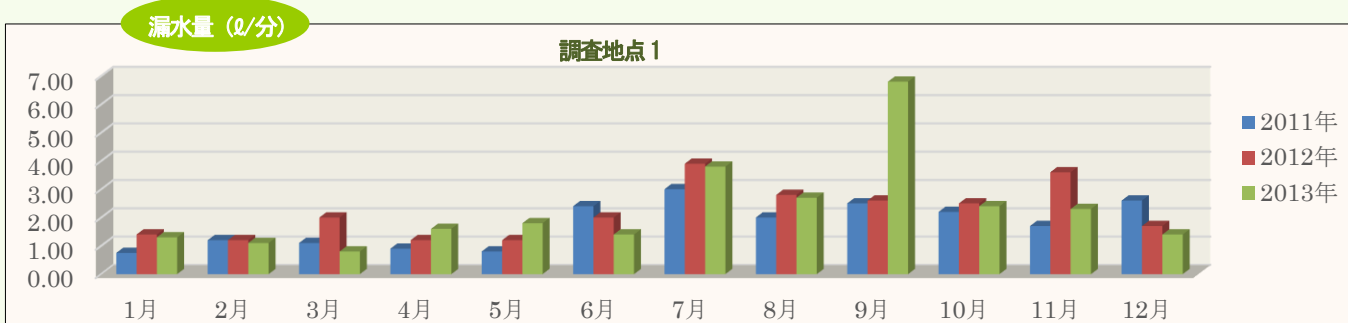
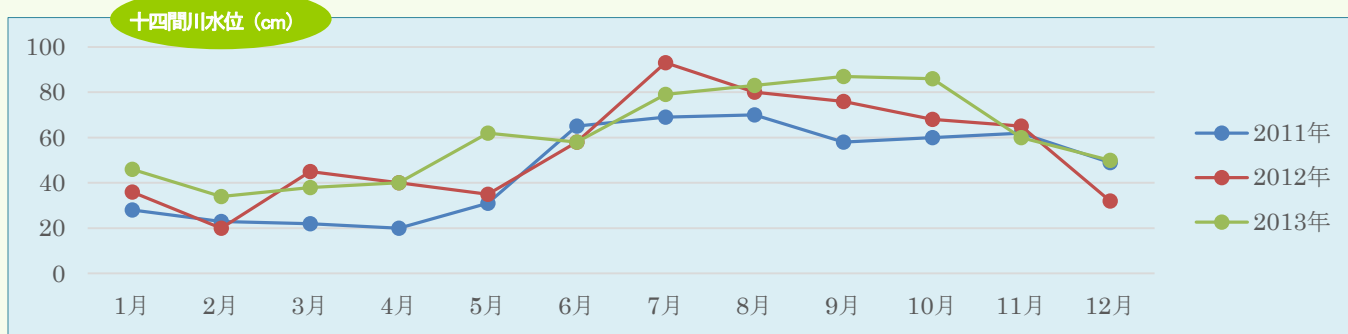
漂着ゴミをなくすには、ゴミを川に捨てない、川に流さないことが一番です。川に流してしまえば、ゴミは目の前からは消えてなくなりますが、決してなくなってしまうわけではありません。川の下流や湖に運ばれて堆積し、環境や景観を損ねることになります。

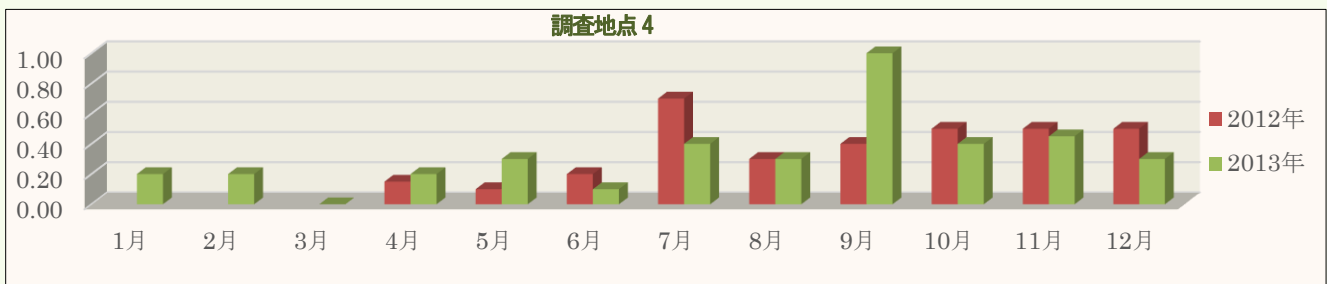
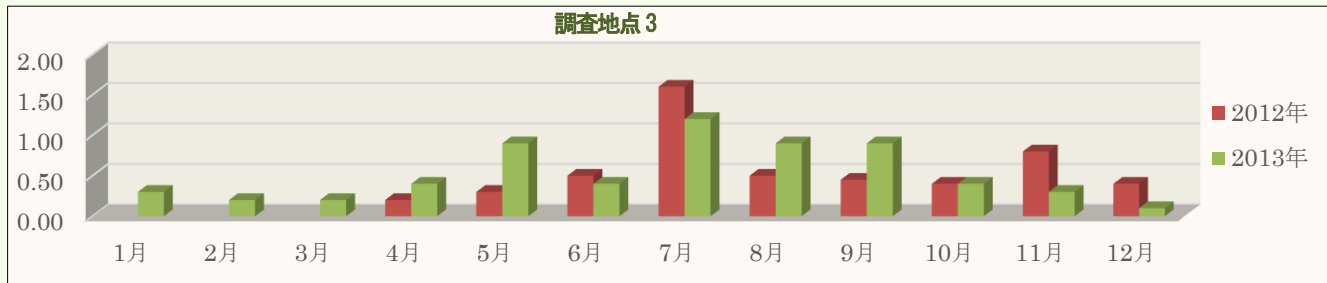
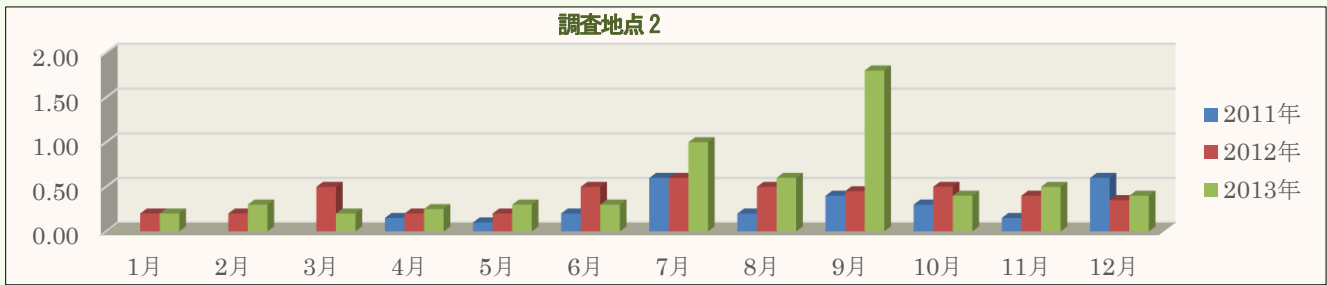
投げ捨てて、目の前からゴミがなくなったとしても、決して心から清々しい気持ちにはなれず、どこかに疾しい気持ちが残るものだと思います。ゴミは、きちんと正しく処分をして、心の底から清々しい気持ちになりたいものです。



## 報告

## 十四間川左岸堤防漏水調査データ (2011年1月～2013年12月)





## 活動の記録(2013年7月~2013年12月)

### 7月

- ・ 宍道湖西岸堤防及び十四間川左岸堤防早期改修等に関する出雲市長、国土交通省中国地方整備局出雲河川事務所、島根県出雲県土整備事務所への要望活動
- ・ 漏水調査、ヨシ生育状況調査、植栽場所周辺漂着ゴミ回収
- ・ 役員打合せ
- ・ 魚介類生息状況調査

### 8月

- ・ 役員会
- ・ シジミ生息状況調査
- ・ 漏水調査
- ・ 環境講演会開催

### 9月

- ・ 漏水調査、ヨシ生育状況調査、植栽場所周辺漂着ゴミ回収

### 10月

- ・ 駒澤大学学生調査に来訪
- ・ 漏水調査、ヨシ生育状況調査、植栽場所周辺漂着ゴミ回収

### 11月

- ・ 漏水調査、ヨシ生育状況調査、植栽場所周辺漂着ゴミ回収
- ・ 広報誌・ホームページ編集委員会

### 12月

- ・ 役員打合せ
- ・ 漏水調査、ヨシ生育状況調査、植栽場所周辺漂着ゴミ回収
- ・ 広報誌・ホームページ編集委員会
- ・ 広報誌「葦の原」第5号発行

### 《編集後記》

葦の原第5号をお届けします。今号の表紙は、十四間川に生えている葦に憩う寒雀の群です。河口部には現堤防の改修工事が行われたときに植栽されたヨシの繁みが残っていて、雀やオオヨシキリなどの小鳥の集う場所になり、また、その根元の水辺には鴨やカルガモ、バン、カイツブリなどの水鳥が憩い、シジミが繁殖する場所ともなっています。また、冬に枯れた上部を刈り取るなど適切な管理をすれば、水中の窒素やリンなどを吸収し、水質の浄化にも効果があり、岸に当たる波を和らげ、自然豊かな水辺の景観を形成するなどの効果があるとされます。これからも葦原の復元や維持管理に取り組んでいかなければならないと考えますが、ヨシ植栽は念願であった堤防補修の実現に伴い、当面休止となるため、私たちの今後の活動計画を再検討していかなければなりません。そして、今後とも宍道湖西岸堤防の早期全面改修実現やヨシの植栽に代わる自然環境保全活動にしっかりと取り組んでいくことが必要であると感じています。引き続きご支援のほどよろしく願いいたします。

松江分自然環境倶楽部通信 葦の原 (Yoshi no Hara) 第5号

発行日/平成 25 年 12 月 25 日

発行者/松江分自然環境倶楽部

広報誌編集委員会

事務局: 〒699-0553 出雲市斐川町黒目 1784

印刷・製本/武永印刷株式会社

《ホームページ》

<http://matsuebun.org>

松江分自然環境倶楽部

検索